

瀬戸内町ふるさと応援基金（ふるさと納税）公表について

この度は「ふるさと納税制度」のご活用により「瀬戸内町ふるさと応援基金」にご寄附を賜り誠にありがとうございました。あらためて衷心より深甚なる謝意を表したいと存じます。

お寄せいただきましたご寄附は、ご意向に沿った事業へと活用させていただきます。

皆様からの「瀬戸内町を応援したい」との温かい真心にお応えすべく、町政運営に懸命の努力を傾注してまいり所存でございますので、今後ともご指導ご協力をよろしくお願い申し上げます。

寄附状況

令和5年度実績

ふるさと応援基金寄附金 144,853,000円 (5,796件)

寄附金の活用状況（令和5年度）

本町では、全国から瀬戸内町を大切に思い支援していただいていることに感謝申し上げながら、寄附金を活用したまちの活性化を図る事業への取り組みを行っております。

令和5年度は以下のような事業に有効活用させていただきました。

グランドデザイン策定事業

町民一人一人・企業・地域団体・行政が一体となって、将来を展望し瀬戸内町の未来やありたい姿を考え、町民の暮らしを豊かにしていくための目標を2050年の将来構想として「せとうち未来展望 2050」を策定しました。



せとうち未来展望 2050

集落等支援対策強化事業

各集落や自治会・任意団体が、地域の活性化や地域課題の解決に向け自主的かつ自発的な運営を行い、その活動が公益に寄与するものである事業に対して補助を行いました。（海の見えるゆらい処・歴史看板等）



海の見えるゆらい処



無形文化財看板

結婚祝い食事券給付事業

婚姻されたご夫婦に対して、町内の飲食店で利用できる「結婚祝い食事券」を給付し、婚姻に伴う新生活を支援しました。

(1組 30,000 円の食事券)



持続可能なまちづくり事業

本町西方地区における地域経済の活性化と文化伝統を担う人材の確保に向け、本地域にある再利用校舎を活動拠点とし、地域独自の自然景観・文化・農林水産物や加工品等、様々な地域資源を生かした取組みや交通弱者である高齢者のサポート・雇用の創出・交流人口の拡大等を掲げ「持続可能な地域づくり」を目指した仕組みづくりを支援しました。



交通弱者高齢者サポート（移動販売車）

スマートタウン推進事業

学生向けには、オリンピック種目になる可能性もあるeスポーツの普及。シニア向けには、認知症予防や交流機会の促進。一般向けには、プログラミングセミナーなどデジタル人材の育成事業を推進しました。



写真はイメージです。

果樹産地育成事業

有望な熱帯果樹品種（たんかん、津之輝、アボカド）の苗木購入費の一部助成を行うことで、農家の生産意欲の向上とコスト削減を図り、果樹産地拡大を図りました。

苗木購入実績

○たんかん苗木	1,817本	○津之輝	513本
○その他カンキツ	96本	○すもも苗木	68本
○アボカド苗木	48本		



たんかん苗



アボカド苗

プレミアム商品券事業

物価高騰により、町民の購買意欲の減少現状がある中、地域の消費喚起を目的にプレミアム商品券を販売することにより、町民の家計への援助や町内店舗での消費拡大など地域経済の活性化を図りました。



地域活性化事業

新型コロナウイルスから開催されていなかった「瀬戸内町みなと祭り」は「相撲大会」「市中パレード」「歌謡・島唄大会」「海上パレード」「舟こぎ競争」「八月踊り」「花火大会」が2日間に渡り開催され、町内外から多くの見物客が訪れました。今回は花火大会の花火購入費助成に充てられました。



漁業従事者ブルーカーボン推進事業

瀬戸内町は令和3年7月に2050年までに二酸化炭素排出量実質ゼロ実現に向け「ゼロカーボンシティ宣言」をしました。

その一つの手段として、ブルーカーボンがあり仕切り網や囲い網を設置し、藻の孢子を着床させるための石を仕切り網内に投石して藻場造成エリアの拡大に努めました。また、小名瀬地区では、地元の小学生や古仁屋高校生・住民・養殖業者・漁業者に参加してもらい、マングローブの苗を700本植栽することができました。藻場造成と二本柱で漁業者目線のブルーカーボン推進ができ、漁の合間に漁業者が藻場造成活動に参加することで漁業所得の向上にも繋がりました。



藻場造成



マングローブ植栽

